

公園内で見られる植物

写真は4月25日(土)
自然観察会で見られた
植物です



チゴユリ (ユリ科)

可憐な小型の花を『稚児』に見立てて付けられた。山野の雑木林に多く生える多年草。茎の先に白い花が1～2個斜め下向きに付き、花の後に黒色の実が一つできます。



トリガタハンショウヅル (キンポウゲ科)

高知県の『鳥形山』で発見されたつる性低木。ハンショウヅル（下向きに咲く鐘形の花を半鐘に例えて付いた）に似ているがあまり大きくならない。花は淡黄白色で、先は広く丸い。毛の付いた種ができます。



ムベ (アケビ科)

葉のわきから、淡黄白色の花を付けます。花は下向きに咲き独特の匂いがします。ムベの白い実は食べられます。でも、アケビの実と違って実は割れません。



ミツバアケビ (アケビ科)

左下が雄花、右上が雌花です。雄花の中に見えるものがアケビの実になります。



タブノキ (クスノキ科)

4～5月、枝先から新葉と一緒にのびた花序に緑黄色の小さな花を付けます。クスノキに似ていますが、クスノキのような芳香はありません。線香の材料にしました。



キラソウ (シソ科)

別名『地獄の釜の蓋』。根生葉が、地面にはりつくように広がっている姿から付きました。中国では慢性気管支炎の薬として使われ、日本でも民間薬として使われ、『イシャコロシ』などの地方名があります。



アキグミ (グミ科)

葉のわきから花が垂れ下がってつく。花ははじめ白色で次第に黄色を帯びる。名前の由来は果実が秋に熟すことにかから付けられました。



コバノガズミ (スイカズラ科)

葉っぱに触れてみてください。毛があるので手触りが滑らかです。
赤く熟した実は食べられます。特に霜が下りてからの実は甘くなるらしいです。



ヤマモモ (ヤマモモ科)

実は甘酸っぱく、生食のほか果樹酒やジャムに加工できます。特に果樹酒は色鮮やかな深紅色になり、香り豊かなお酒となります。どれが花かなあ？



ヒメハギ (ヒメハギ科)

花が小さくてハギを想像させるのでこの名前。鳥が飛び立つような独特の花の造りです。



ウワミズザクラ (バラ科)

白い花が枝の先端にブラシのような花を付け、木を切ると強い臭気があります。若い果穂を塩漬けにして食べます。果実は黒く熟します。果実酒にすると香りが良くて色が美しい。



ヤマフジ (マメ科)

枝先に長さ10～20㍻の房状に紫色の蝶形花を付ける。花が白い品種もある。花は天ぷらにして食べると甘くて美味しい。

つるを下から見ると右巻きに見えるのが特徴。ちなみにフジ(藤)は下から見ると左巻きに見える。



カラスノエンドウ (マメ科)

道端や畑、野原など日当たりの良いところに普通に見られるつる性の2年草。

マメを取り除いたさやで笛を作った記憶がありませんか？